

トキと共生する里地づくり取組地域の公募について

1. 取組の背景

トキは、かつては全国各地に広く生息していたものの、昭和 56 年に野生絶滅。平成 11 年以降、中国より提供された個体（計 7 羽）をもとにした飼育下での繁殖が順調に進み、平成 20 年に佐渡島において第 1 回放鳥を実施。

その後、佐渡島における野生復帰が順調に進み、野生下の生息数は約 480 羽にまで増加していることから、次のステージとして、佐渡島以外の複数の地域個体群の形成が必要となり、昨年度にトキ保護増殖事業計画を変更。

2. 取組の概要

環境省では、トキ保護増殖事業計画において将来的な本州等におけるトキの定着を目指した取組を位置づけ、本州等においてもトキが定着できるよう、環境省とトキ受入れに意欲のある地方公共団体等が連携しながら、トキと共生する里地づくりを推進する予定。

本取組においては、「トキと共生する里地づくり取組地域」として、「将来的なトキの野生復帰を目指し環境整備を進める地域」及び「放鳥は行わないものの、飛来したトキが生息できる環境整備を進める地域」を公募し、選定された地域間で交流を図りながらトキと共生するための環境整備等を進めることとする。

3. 今後のスケジュール

<公募にかかるスケジュール>

5月10日 トキと共生する里地づくり取組地域公募開始（6月30日〆切）

7月 トキと共生する里地づくり取組地域選定委員会

8月上旬 選定結果公表

<野生復帰にむけた中長期的なスケジュール>

～2025年度 トキが生息していくために必要な環境整備の取組等を実施
2026年度以降 環境整備等の進捗が十分と確認された段階で放鳥を実施

トキ野生復帰ロードマップ2025の概要

【位置付け】

種の保存法に基づく「トキ保護増殖事業」の2021～2025年度の行程表

【現状と課題】

- ・2008年に放鳥開始、2021年6月までに24回で415羽を放鳥
- ・2012年に繁殖成功、2016年に野生下生まれペアが繁殖成功、2019年に野生絶滅から絶滅危惧IA類に変更
- ・2021年3月現在、飼育下で約170羽、野生下で推定約430羽
- ・遺伝的多様性確保、地域住民との軋轢（稲踏み、騒音等）、将来的な採餌環境維持、本州等での環境整備が課題



【目標】

最終目標 トキが自然状態で安定的に存続（成熟個体1000羽以上、複数の地域個体群、遺伝的交流、過密にならない）

中長期的目標(～2035年頃) 【佐渡島】トキが過密にならず、遺伝的多様性を維持しながら存続

【本州等】トキが定着し、繁殖成功

短期的目標(～2025年)

【佐渡島】トキが過密にならず、遺伝的多様性を維持しながら個体数の増加傾向を維持

【本州等】トキの生息に適した環境の保全・再生や社会環境整備の取組を進める

トキの野生復帰

飼育・繁殖・訓練・放鳥

- 【センター・分散飼育施設】
- ・計画的な飼育・繁殖※200羽程度
 - ・生理生態等の情報収集

- 【佐渡島】
- ・訓練・放鳥を実施※年30羽程度
 - ※ハードリリース・ソフトリリース併用
 - ※R4を目途にハードリリース技術を確立

- 【本州等】
- ・飛来トキ繁殖時緊急放鳥の検討
 - ・放鳥の可能性、要件等の検討

生息環境の保全・再生

- 【佐渡島】
- ・生息環境の保全・再生への協力
 - ・天敵対策
 - ・生息環境への配慮要請

- 【本州等】
- ・トキ受入れに意欲的な地域を中心に生息環境整備の可能性を検討
 - ・生息環境の保全・再生への協力

普及啓発等

- 【佐渡島】
- ・普及啓発・情報発信・環境教育
 - ・佐渡観光でのトキの適切な活用
 - ・分散飼育施設での一般公開
 - ・地域の合意形成、情報共有等

- 【本州等】
- ・分散飼育施設での一般公開
 - ・社会環境整備への協力
 - ・積極的な情報発信

モニタリング

- 【佐渡島】
- ・モニタリング実施
 - ・結果分析・フィードバック
 - ・野生下ヒナ足環装着※年30羽
 - ・広域的モニタリング手法検討

- 【本州等】
- ・情報収集体制の構築・運用

「トキと共生する里地づくり取組地域」への参加プロセス

意欲ある地方公共団体

トキの野生復帰を目指す場合

トキが生息できる環境整備を進める場合

「トキと共生する里地づくり」参加表明書提出

<参加表明書記載事項>

1. 取組主体となる地方公共団体、複数の地方公共団体等で連携する場合、連携についての調整状況
2. 取組範囲及びその対象範囲の考え方、自然環境
3. 環境整備等に取り組むに当たっての関係機関との連携を含めた体制、取組を進めるに当たっての役割分担
4. 地域住民を含めた地域ぐるみで取組を推進するための方針
5. 過去のトキの生息実績の有無
6. トキに関する知見・経験等の有無
7. トキとの共生を目指すに当たっての地域の課題と現状
8. 取組を通じて目指す地域の姿 等

<参加表明書記載事項>

左のうち、

1. 取組主体
3. 体制、役割分担
4. 地域ぐるみで取組を推進するための方針
7. 地域の課題と現状
8. 取組を通じて目指す地域の姿 等

トキと共生する里地づくり取組地域選定委員会

参加表明書を審査し、要件を満たし、かつふさわしい地区を3地域程度選定
※現時点では、ふさわしい地域が3地域程度選定され、選定された地域において取組が適切に進捗する限りにおいて、当面、追加公募は想定していない。

参加表明書を確認し、要件を満たす地域を選定
※地域数は限定しない

※本州等におけるトキの飛来の増加等に伴い、周辺の地方公共団体の意欲の高まりがある場合には、追加公募する場合がある。

----- 選定されなかった場合
(参加表明書提出主体の希望があれば) -----

トキの野生復帰を目指す里地

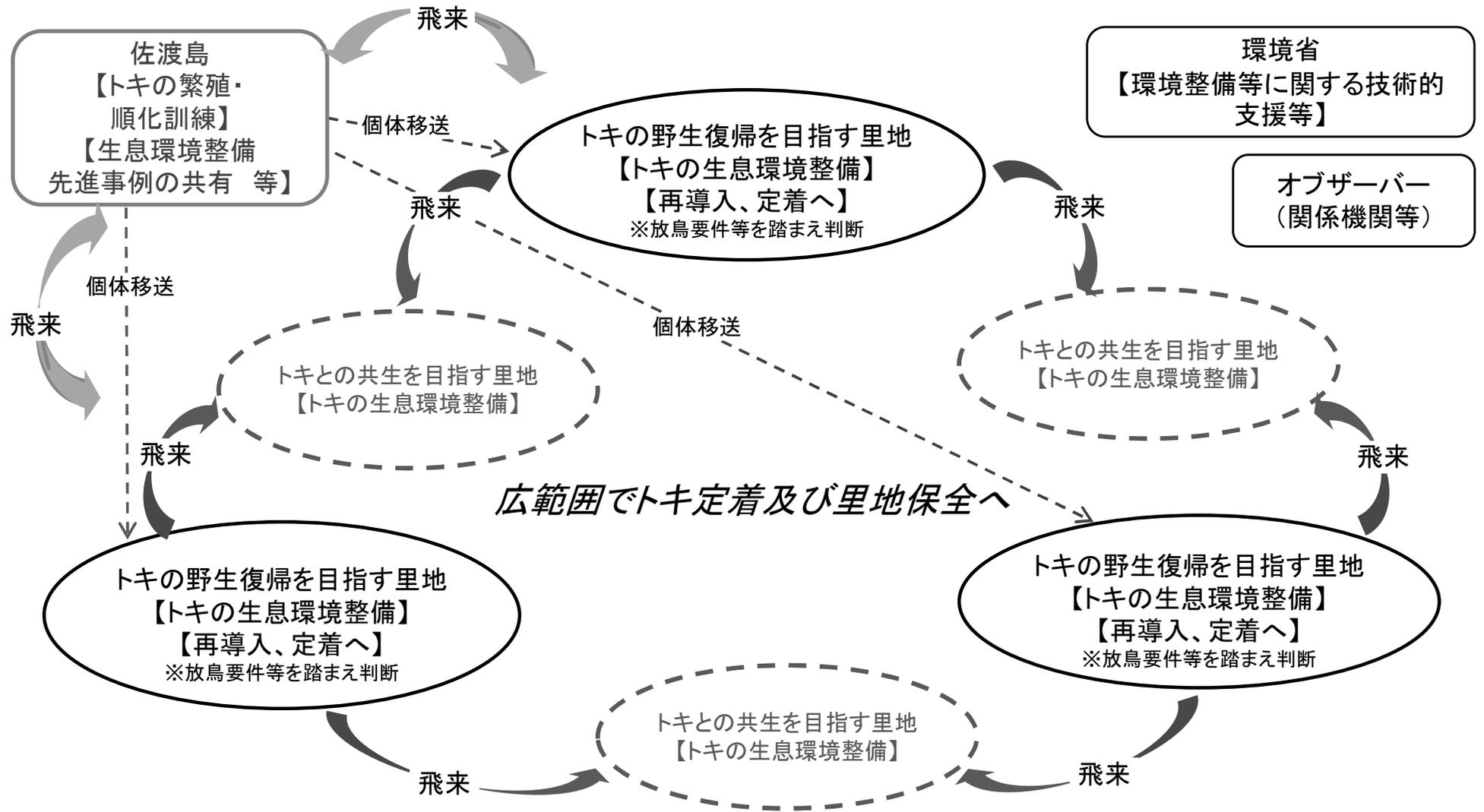
トキとの共生を目指す里地

※ 「トキの野生復帰を目指す里地」として参加表明した地方公共団体においても、審査結果により「トキとの共生を目指す里地」として選定することも想定。

本州等におけるトキと共生する里地づくり イメージ

トキと共生する里地づくりに関する地域間の交流の枠組み(案)

佐渡市の取組を参考に、里地づくりに関する情報共有を図りながら、連携して環境整備等の取組を推進



- 本州等のトキの野生復帰を目指す里地において将来的に再導入を実施した場合等に、周辺地域にトキが飛来する可能性が高まる。
- 周辺地域においてもトキが息できる環境が整っていれば、本州等においてトキが定着する可能性が高まる。
- トキの野生復帰を目指す里地だけでなく、トキとの共生を目指す里地が連携して取組を進めることにより、将来的には広範囲でのトキの定着、里地保全につながり、個体間の交流等も期待できる可能性。